

2018年12月期 通期決算説明会資料

株式会社アプリックス
2019年2月26日

➤ 2019年2月25日付で代表取締役 兼 取締役社長であった長橋が代表取締役会長、常務取締役であった根本忍が代表取締役社長に就任。

■ 今後について

✓ 長橋（代表取締役会長）

証券アナリスト、当社CFOとしての経験を当社経営に活かすべく、主にファイナンス・資本政策等に注力。

✓ 根本（代表取締役社長）

業務執行側の最高責任者として、新サービス・新技術の開発及び創出に引き続き注力するとともに、IoTソリューション事業の拡大・発展に取り組んでいく。

（詳細については本資料のP.10～P.20参照）

※本件の詳細については、同日付適時開示「代表取締役の異動並びに取締役及び監査役候補者の選任に関するお知らせ」をご参照ください。

18年12月期第4四半期 累計P/L (連結)

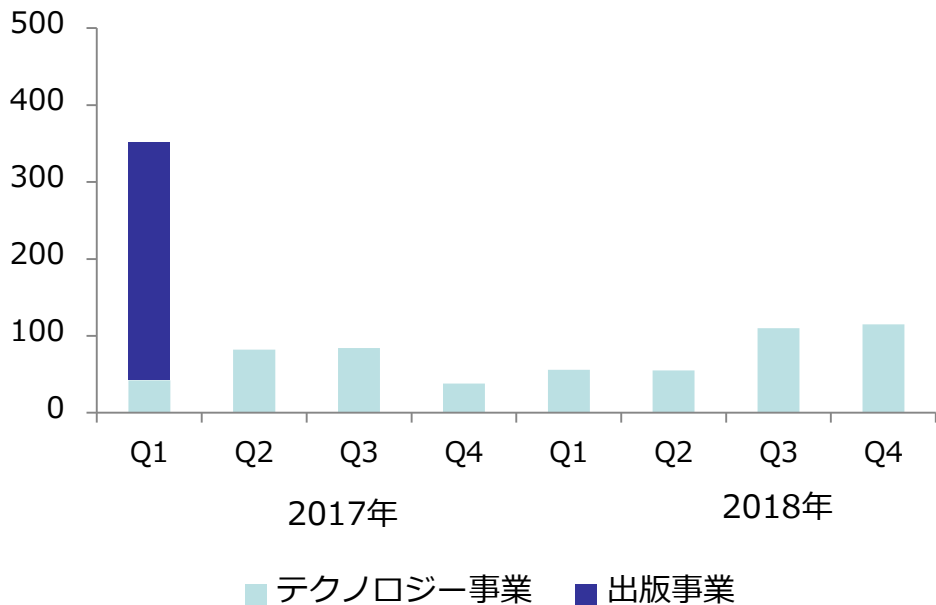


(単位：百万円)	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する四半 期純利益
17年12月期 Q4累計実績(A)	557	▲405	▲421	▲946
18年12月期 Q4累計実績(B)	336	▲444	▲456	▲458
増減額 (B-A)	▲220	▲38	▲30	+487
増減率 (%)	▲39.6	-	-	-

18年12月期第4四半期 売上高推移



単位：百万円



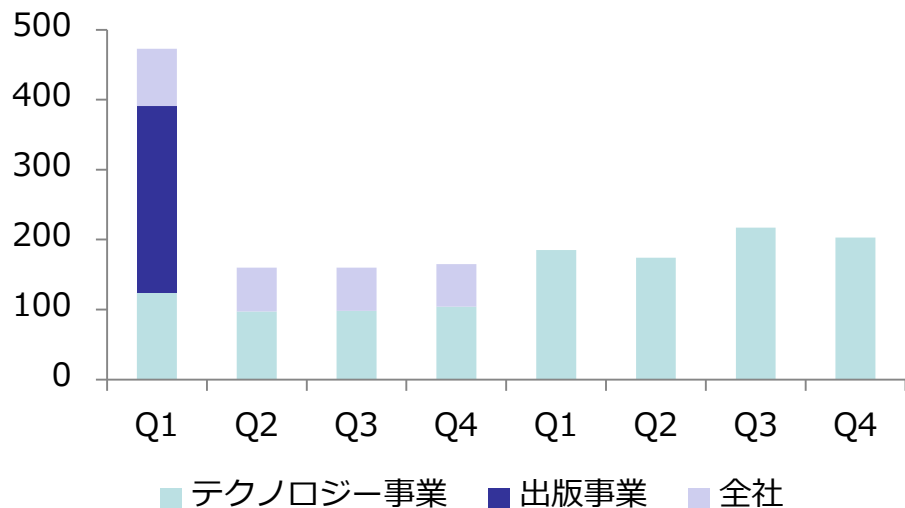
(単位：百万円)	2017年 Q4	2018年 Q4	増減率
テクノロジー事業	38	115	+202.6%
出版事業	—	—	—
(売上高合計)	38	115	+202.6%

- 出版事業については、2017年3月31日に、出版事業に属する全ての子会社の全株式を譲渡。
- 第1四半期連結会計期間より「テクノロジー事業」の単一セグメントに変更。
- 第4四半期は、受託開発案件の増加等により前年同四半期と比較し大幅に増収（前年比+202.6%）

18年12月期第4四半期 営業費用推移



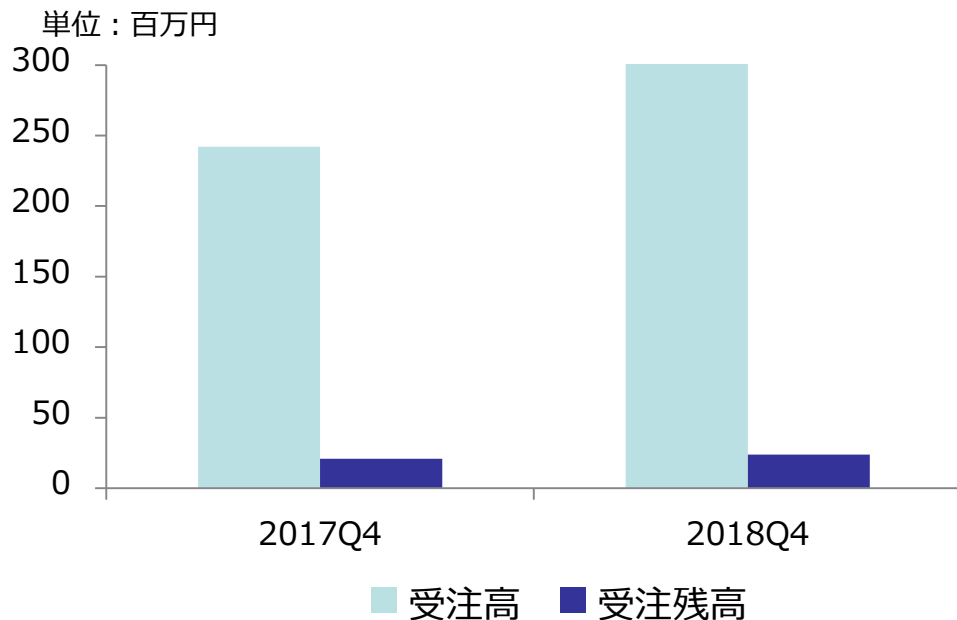
単位：百万円



(単位：百万円)	2017年 Q4	2018年 Q4	増減率
テクノロジー事業	166	203	+23.0%

- 第1四半期連結会計期間より「テクノロジー事業」の単一セグメントに変更。
- 営業費用の増加要因は、開発案件の増加に伴い外注費が増加したこと等の理由によるもの。

18年12月期第4四半期 受注高・受注残高



(単位：百万円)	2017年 Q4	2018年 Q4	増減率
受注高	242	306	+26.4%
受注残高	21	24	+14.3%

- 受注実績の主な増加要因は、当社ソリューションを導入した顧客からの追加開発案件の増加によるもの。
- 受注残高についても前第4四半期と比較して増加。

- ▶ 水処理システムをIoT化するオールインワンパッケージ「HARPS（ハーパス）」を2018年4月1日に発売。

■ 「HARPS」の契約状況

地域	目標契約数	契約締結件数	進捗率
米国・カナダ	12件	3件	25.0%
欧州・中東・アフリカ	10件	8件	80.0%
日本・アジア・その他	3件	3件	100%
TOTAL	25件	14件	56.0%

- ✓ 目標契約件数25件に対して、現在までに14件の契約を獲得
- ✓ 他社ブランドでHARPSを提供する「White label」を1件受注、2018年12月よりウクライナにて商用利用開始
- ✓ 2019年1月より日本において提供開始

➤ 第M-2回新株予約権の行使状況（2018年12月末時点）

当初付与個数	45,000個
累計行使個数	27,719個（行使率：61.6%）
未行使個数	17,281個
平均行使価額	261.58円
当初予定調達金額	1,818,000,000円
2018年10月末時点の調達金額	707,824,460円（進捗率：38.9%）

➤ 第S-3回新株予約権の消滅

2017年11月27日に株式会社光通信を割当先として発行した第S-3回新株予約権については、ノックアウト条項に設定された株価を下回ったことにより2018年5月17日に消滅

- 現在当社が取り組んでいる新事業ビジョンに掲げた各施策に関連した豊富な経験や知見等を有する有識者を新たに招聘し、オブザーバー体制を強化。
- 2018年9月28日付で当社取締役を辞任により退任し、顧問に就任した石黒邦宏氏についても、当社オブザーバーの一員として引き続き当社の営業面及び技術面に関与。

<当社オブザーバー体制（就任順）>

氏名	主な経歴
田口 勉 (たぐち つとむ)	株式会社アイネット 取締役副社長
根木 勝彦 (ねき かつひこ)	日本電気株式会社 技術部長／技術戦略マネージャー ルネサスエレクトロニクス株式会社 マーケティング部門エキスパート
石黒 邦宏 (いしぐろ くにひろ)	当社 取締役CTO
曽根 卓朗 (そね たくろう)	ヤマハ株式会社 サウンドネットワーク事業部サウンドネット開発部長 ヤマハ株式会社 INFOサウンド開発推進室開発担当部長 静岡大学 臨時講師（現任） ETロボコン実行委員会（現任）

今後の事業戦略について



アプリックスのこれまで



1990年代（中期） メディアのインフラ

CDオーサリングツール
WinCDR 6.0
Premium
Package

CDWriter



大容量のデータをCD-ROMに書き込むことができる画期的な技術として注目される

1990年代（後期） ネットワークのインフラ

組み込みシステム向けWebブラウザ



インターネット対応カーナビゲーションシステム、
家庭用ゲームのインターネット対応等

2000年代 制御のインフラ

組み込み向けシステム向けJavaプラットフォーム



当社Javaプラットフォーム「JBlend」は多数の大手携帯電話メーカーに採用され、株式上場の直接の原動力に
全世界で9億台（2018年現在）を超える携帯電話に搭載

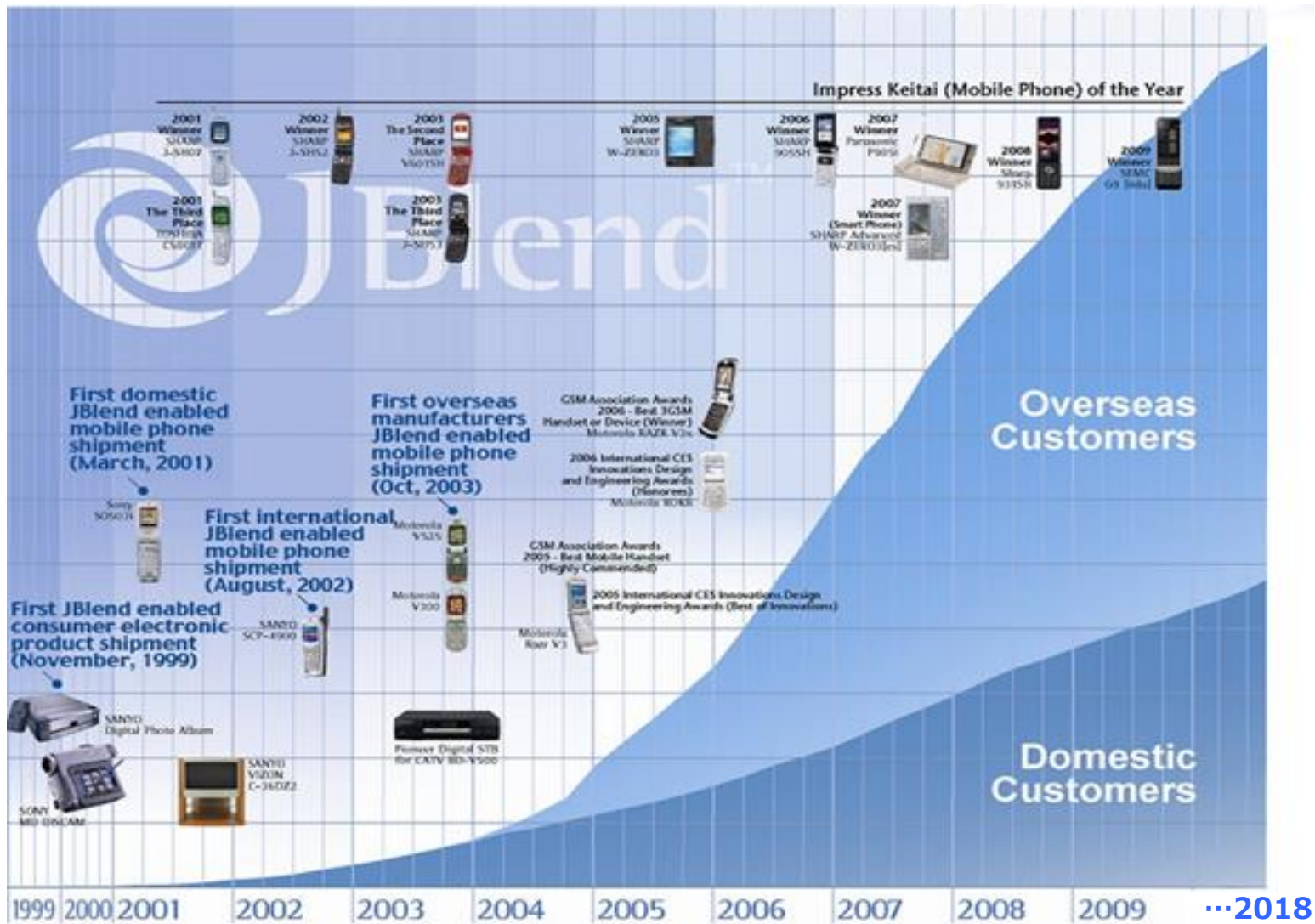
2010年代 IoT・M2Mのインフラ

IoTトータルソリューション



ハードウェアの設計開発・製造からアプリケーション・クラウドサービス、運用・保守までワンストップなIoTトータルソリューションの提供

これまでの実績をもとにIoT/CPS・AI・Robot・Big Data時代の新しいインフラの構築・開発・運用へ



現在は、当社のコア・コンピタンスである組み込みソフトウェア技術と組み込みハードウェア技術を活かしたソリューション・サービスの開発・提供に注力

「ハードウェア」と「ソフトウェア」の知識・経験に基づくソリューション提供

アプリックスは、カーナビ、携帯、家電などの分野における30年以上の取り組みを通じて蓄積したハードウェアの知識を活かしたアプリケーション、プラットフォーム開発の実績・ノウハウを保持しております。

<ハードウェア>



設計から部材調達、生産、
認証対応等

<ファームウェア>



ハードを制御するソフト
当社独自開発

<アプリケーション>



UI・UX設計から
アプリフレームワークまで
設計

<クラウド>



大規模IoTサービスの運営

unconnectedな
モノ・ひと・サービス・企業・市場を
相互につなぐ「コネクタ」

“CONNECTING THE UNCONNECTED”

社会の公器として、
技術的な提案及び挑戦の継続を素に、
顧客企業における問題の解決に寄与し
その企業価値の向上のお手伝いをするとともに、
自社の技術を活かして
新たな剰余価値の創出と社会資本の整備を目指し、
安全・安心・快適で
持続的な社会の実現に貢献する。

現在のIoTソリューション事業を発展させ、
DX(デジタル・トランスフォーメーション)事業
PF(プラットフォーム)事業
のふたつの方向性で、
業態及び業容の拡大を目指す。

国家規模で進むデジタル・トランスフォーメーションを
支援し促進すると共に、特に経済産業省が
『DX推進システムガイドライン』等で指摘する
「2025年の崖」＝年間最大12兆円の経済損失が生じる可能性を
乗り越えるべく、ネスレをはじめとした顧客に対して、
新たな関係性を構築し対応策等の提供を加速していく。

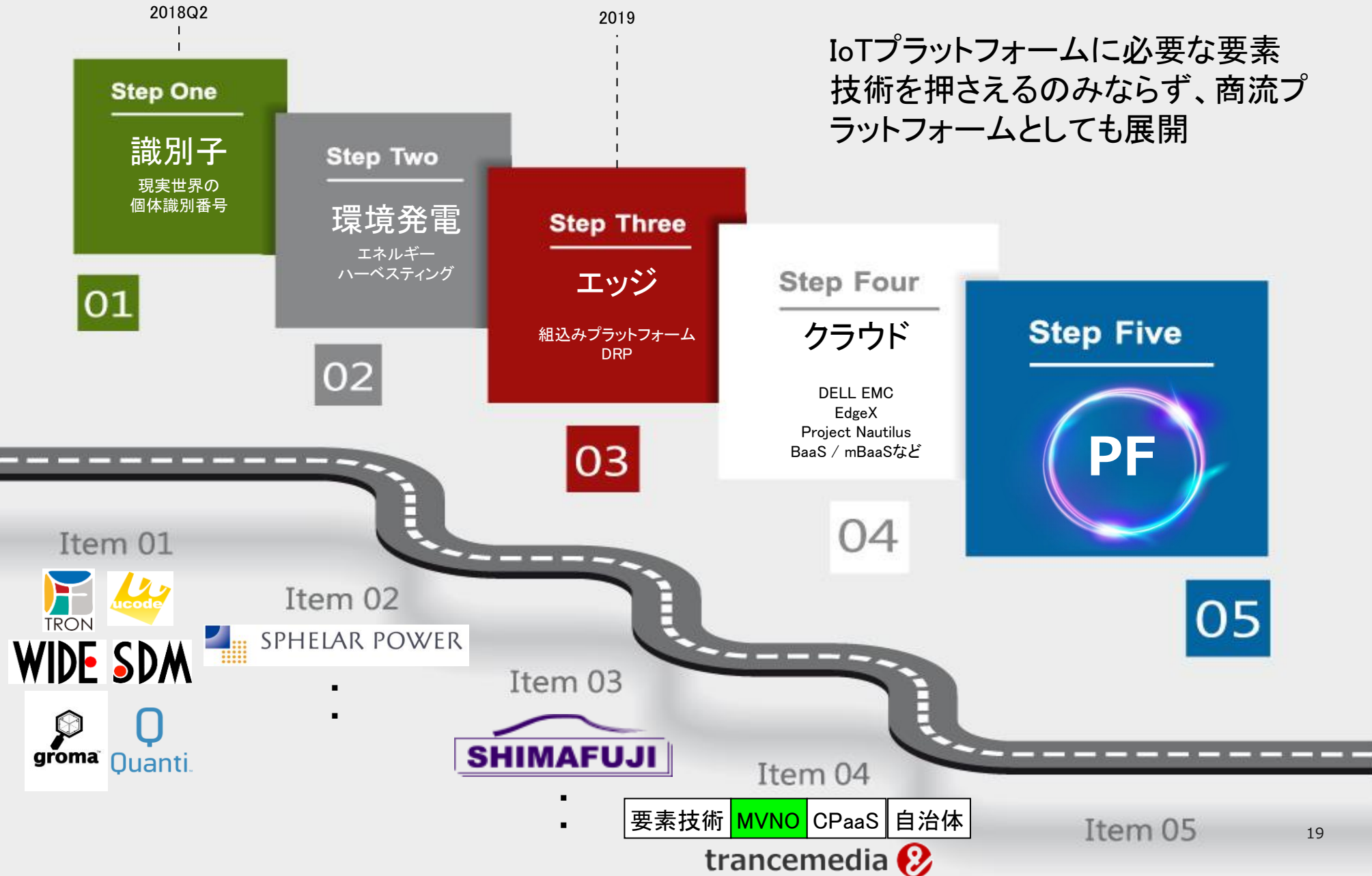
受託開発(ソリューション事業)
他社開発支援
外部サービス連携

従前のHARPS事業等、及び共同研究開発などアライアンス
パートナー企業各社との動き及び関係性を発展させ、
B2B(Business to Business)及び
C2B(Customer to Business / Consumer to Business)の
ふたつの分野で事業を拡大を目指す。

OEMによる自社ブランドO2Oプラットフォームの開発・販売
通信モジュール及びMVNOとのクロスセル
クラウドIoTプラットフォームの構築と運用
受託開発
他社開発支援
外部サービス連携

PF事業の方向性：要素技術

IoTプラットフォームに必要な要素技術を押さえるのみならず、商流プラットフォームとしても展開



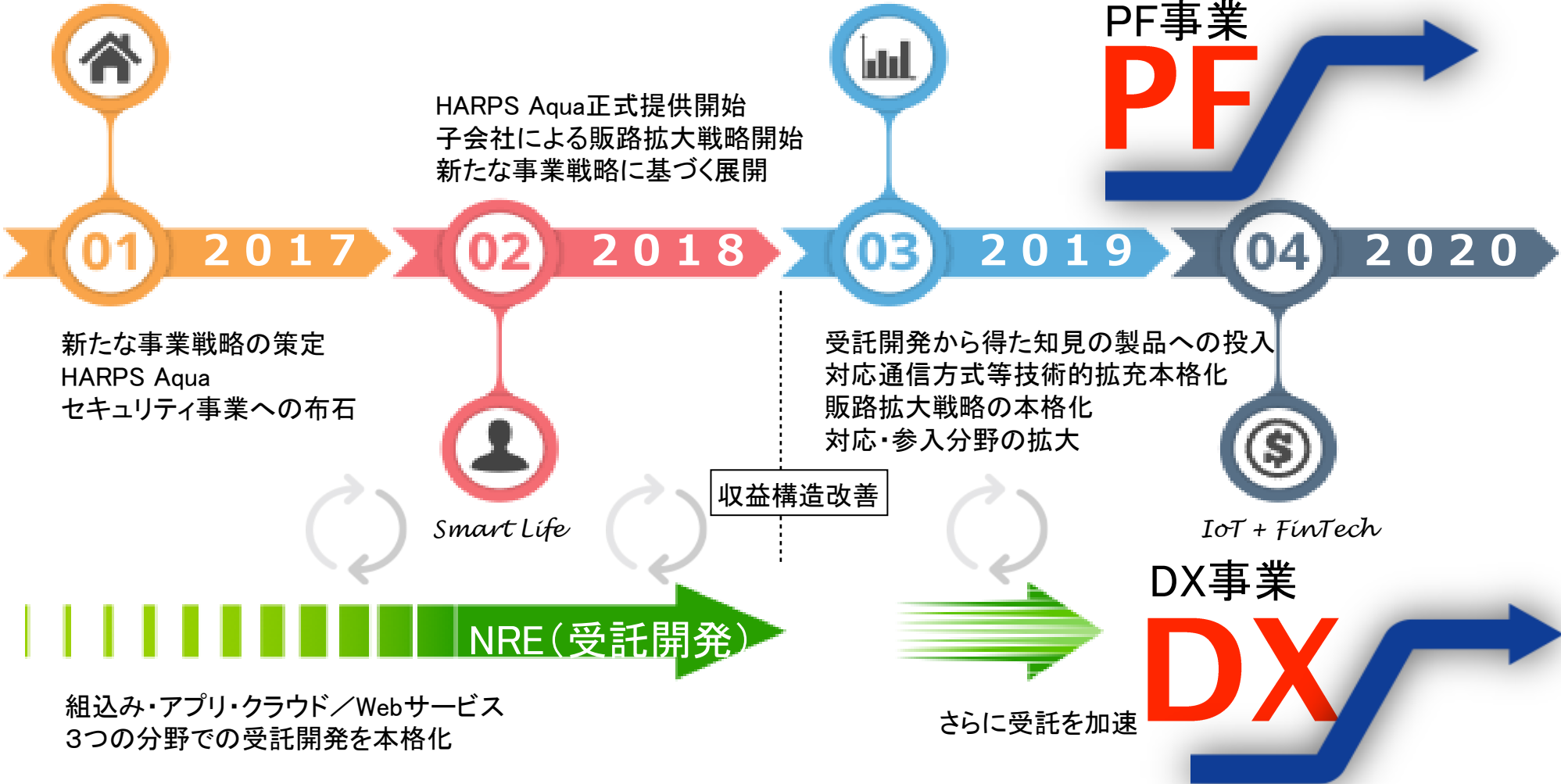
中期的タイムライン

Smart Home

IIoT (Industrial IoT)

PF事業

PF



2018年11月29日発表

アプリックスとシマフジ電機がルネサス エレクトロニクス製マイクロプロセッサRZ /T1向けI /O端子機能仮想化技術「fvIO™」を 共同でプロモーションしていくことで合意

組込み向けハードウェア及びソフトウェアの開発を手掛けているシマフジ電機株式会社（本社：東京都大田区、代表取締役：藤代巖、以下「シマフジ」）と、シマフジが開発した「fvIO™」技術を共同でプロモーションしていくこと、並びに同社の「fvIOプラグイン™」の販売なども協力して進めることについて、2018年11月に合意しました。

アプリックスは、fvIOホストであるルネサスの「RZ/T1（RZ/Tシリーズ）」をはじめ、ルネサスの「e-AI」を高速実行するオフロードエンジンとして最適なDRP（Dynamically Reconfigurable Processor、ルネサスが開発した、1クロックごとに演算回路を動的に変更できるプロセッサ技術）を搭載するマイクロプロセッサ「RZ/A2M」、並びにこれらに対応するシマフジの「fvIOプラグイン」をベースとする組込み機器開発、開発支援、受託開発及びソリューションの構築などを行います。また、併せてシマフジの「fvIOプラグイン」に係る販売代理業務も開始する見込みです。

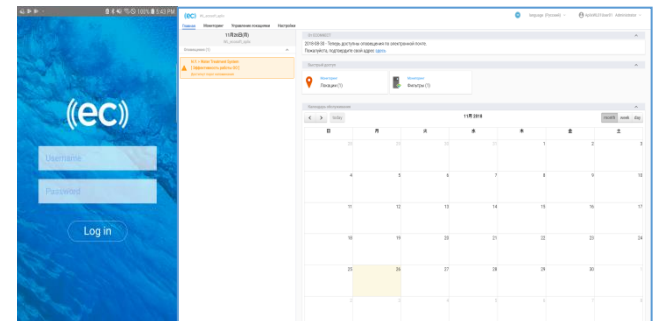
2018年12月27日発表

ウクライナ最大の浄水器メーカーEcosoftが アプリックスの「HARPS™（ハープス）」を採用

アプリックスが提供する水処理システム「HARPS™」が浄水器メーカーであるEcosoftに採用され、ウクライナ全土に展開するガソリンスタンドOKKOに設置されたEcosoftのウォータースタンドのモニタリングを開始いたしました。

Ecosoftでは以前よりOKKOのガソリンスタンドに対してウォータースタンドを設置していましたが、水のペットボトルを保存するために多くのスペースの確保が必要となったり、次の配達を待たずに水が使い終わったりするなど、不便な状況が続き、また、スタッフがコーヒーマーカーの水位を確認し忘れてしまい、コーヒーマーカーが故障するなどの状況を改善するため、「HARPS」を搭載した逆浸透膜（RO膜）フィルター付き浄水器をOKKOのガソリンスタンドに440個以上設置しました。

その結果、ダッシュボードでモニタリングしている水量や汚染具合といったデータを利用し、OKKOに対してタイムリーな情報と継続的に美味しい水を提供することができるようになったことから、OKKOのサービス向上に寄与し、また、「ECONNECT Dashboard」で管理するデータに基づいて請求する仕組みを構築することで、Ecosoftの業務効率化も実現しました。



2019年2月1日発表

「HARPS™（ハープス）」を日本で提供開始し、 海外のみならず国内においても積極的なサービス展開をスタート

アプリックスではこれまで、水処理システムに流量センサー、簡易TDSセンサー（水に溶けている電解物質の除去率を測定するセンサー）等を接続して、浄水器のフィルターの使用状況や交換時期、水の汚れ具合等をモニタリングするプラットフォームサービス「HARPS」を2018年4月の発売以降、主に浄水器等の「水」に関するIoT化に対するニーズが多い欧米を中心に営業活動行っていましたが、国内においても本格的に提供を開始することといたしました。

なお、アプリックスでは、「HARPS（ハープス）」を自社ブランドとしてご利用いただくOEM形式のサービスも提供しています。また様々なセンサー等を接続するためのカスタム対応を行っております。

お気軽にご相談ください。



WEBアプリ、モバイルアプリ



センサーゲートウェイ
「IoTIZR™」

2018年12月21日発表

アプリックスの子会社BEAMO（ビーモ）が PC自動ログイン/ログオフシステム「iLUTon（イルトン）」の取扱いを開始

アプリックスの子会社である株式会社BEAMO（ビーモ）が、株式会社イージーディフェンスと販売代理店契約を締結し、イージー社が開発・販売するPCの自動ログイン/ログオフシステム「iLUTon（イルトン）」の取扱いを2018年12月から開始いたしました。

「iLUTon」は、受信機をPCに接続してカードを携帯しておくだけで、席を離れる時に自動でログオフし、席に戻ってくる時にパスワードの入力をすることなく自動でログインできるという特徴を持つPC自動ログイン/ログオフシステムです。

ビーモでは、法人向け携帯電話やSIMの販売、契約管理業務の効率化を促進する電子契約サービス、スマート打刻サービス「DAKOQ™」等の販売を行っておりますが、「iLUTon」を取扱うことにより、個人情報など機密情報の漏えい対策を促進する新たなソリューションとして提案することが可能となると考えております。



※ 「iLUTon（イルトン）」の製品紹介動画：<http://iluton.net/video/use.mp4>

2019年2月14日発表

O2Oプラットフォーム開発運用の株式会社トランスメディアGPと次世代O2Oプラットフォームおよびサービスの共同開発について合意

O2Oプラットフォームの企画・設計・開発・運用を行う株式会社トランスメディアGP（以下「トランスメディア」）と次世代O2OプラットフォームおよびO2O MAプラットフォーム並びに同サービスを共同で開発することについて合意しました。

アプリックスでは、スマートフォンにおけるアプリ・プラットフォームの開発、およびUX（User Experience：顧客体験）を主軸とした戦略、並びに様々なデバイスやクラウド側のサービスなどを相互に接続してMAを実現していく バックエンドのプラットフォームが必要であると考えており、今回、店舗向けアプリ制作サービス「店舗アプリ」で店舗アプリの利用者数国内No.1を誇るトランスメディアと共同開発を行うことにより、次世代のO2Oプラットフォーム及びO2O MAプラットフォームを提供することが可能になると考えています。

<「店舗アプリ」の機能>



<「店舗アプリ」実用例>



2019年2月21日発表

「デザインソリューションラボラトリー」の株式会社ホロンクリエイトとUXデザインによるIoTソリューション開発に関する共同研究について合意

プロダクトデザインやWeb・サービスなどのさまざまなデザイン分野において「体験設計」(Experience Design)をベースに質の高い経験価値の向上に寄与してきたデザインソリューションの専門企業である株式会社ホロンクリエイト(以下「ホロンクリエイト」と、DX(デジタルトランスフォーメーション)時代の到来に際し、UXデザイン(User Experience:顧客体験)によるIoTソリューション開発に関する共同研究を行うことについて合意しました。

今回の共同開発合意を通じて、今後DXやIoTなどが本格的に普及する時代をむかえるにあたり、単なるGUI(グラフィカルユーザインタフェース)のデザインといった観点からではなく、より本質的な方向性である「デザイン思考」的なアプローチを取り入れつつ研究を進めるとともに、具体的なスマートフォン向けアプリケーションなどへの応用も適宜開始する予定です。



会社名

株式会社アプリックス
[英文表記：Aplix Corporation]

本社所在地

〒160-0051
東京都新宿区西早稲田二丁目20番9号

設立年月日

1986年2月22日

資本金

2,221百万円 [2018年12月末現在]

売上高

336百万円（連結） [2018年12月期]

従業員数

33名（連結） [2018年12月末現在]

マネジメント体制（2019年2月25日現在）

代表取締役会長	長橋 賢吾
代表取締役社長	根本 忍
取締役	平松 庚三
常勤監査役	大西 完司
監査役	山田 奨
監査役	坂口 禎彦

執行役員	高木 健
執行役員	白川 貴裕
執行役員	山田 信重
執行役員	倉林 聡子

オブザーバー	田口 勉
オブザーバー	根本 勝彦
オブザーバー	石黒 邦宏
オブザーバー	曾根 卓朗

事業内容

テクノロジー事業

グループ会社

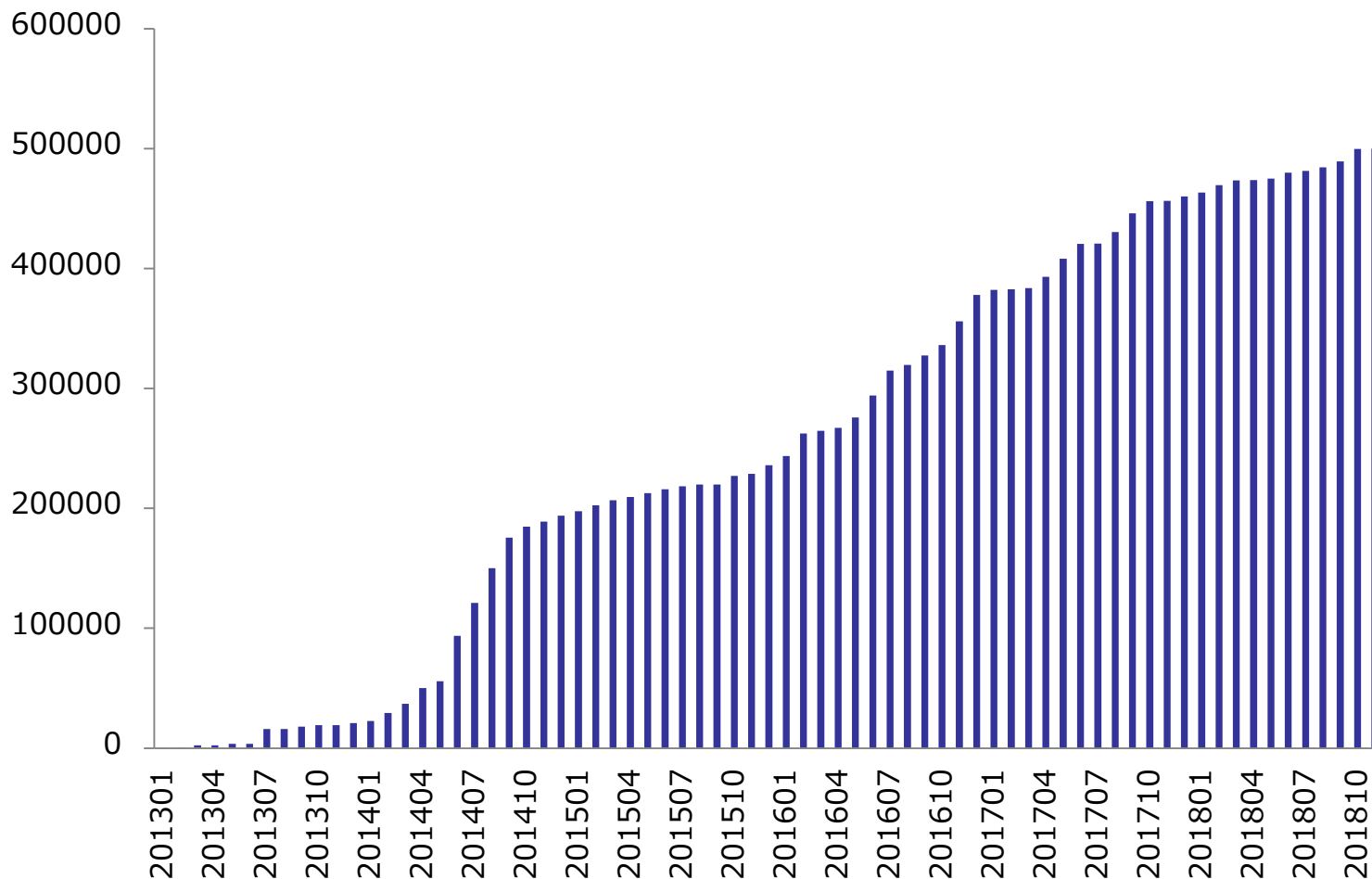
Aplix Corporation of America
株式会社BEAMO

参考情報



■モジュール出荷実績

2018年11月に累計出荷台数50万台突破



出所：会社資料（JMシリーズ、MyBeaconシリーズ、その他を合計）

■ 「MyBeacon®シリーズ」

「MyBeacon®シリーズ」とは、Bluetooth® Low Energyに対応したアプリックスのBluetooth® Smart製品であり、Beaconに対応したiOSデバイス向けにデータを発信し、iBeaconに対応したiOSデバイスを使って発信するデータを書き換えることが可能です。

置くだけ・貼るだけで手軽にBeaconを使ったサービスが開始可能であり、飲食業界、アパレル・ファッション業界、観光業界、運輸業界、レジャー・エンタメ業界などでのO2Oや位置情報、マーケティング、施設・展示案内、行動把握・分析などの幅広いサービスで実用化が進んでいるソリューションです。

< 「MyBeacon®シリーズ」ラインアップ >

汎用型



近接域特化型



防水防塵型



ペンダント型



USBスティック型



アプリックス通販サイト (<https://mybeacon-store.stores.jp/>) で販売中。

「MyBeacon®シリーズ」の採用事例

■ KDDI株式会社の動物園向けサービス「one zoo（ワンズー）」

✓ 「one zoo（ワンズー）」とは？

動物園で飼育されている動物の動画閲覧や専用アプリの入ったスマートフォンを持って展示ブースに近づくと音声で動物の解説をしてくれるなどの特徴を持ったKDDIが提供する動物園向けサービスです。

「MyBeacon®シリーズ」のラインアップのうち防水防塵型が動物園内に設置されるビーコンに採用され、すでに「よこはま動物園ズーラシア」（横浜市）、「天王寺動物園」（大阪市）や「旭山動物園」（旭川市）などで利用されています。

どうぶつのことがもっとわかっちゃう

one zoo 音声ガイド



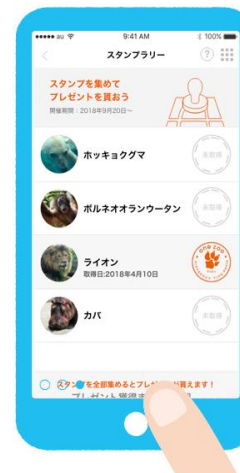
会いたいどうぶつまで楽しくナビ

one zoo マップ



園内を巡ってプレゼントをもらおう

スタンプラリー



大規模プラットフォーム運用実績（ネスレ日本株式会社様）：

累計出荷台数30万台以上、アクティブユーザ10万を超えるネスレ社の「バリスタ i[アイ]」のIoTプラットフォームをアプリックスが一括して開発・運用しています。

<主な機能>



アプリでコーヒーの濃さ・泡立ちを調整



飲めば飲むほどポイントがたまる



家族や友達とつながる

ネスカフェゴールドブレンド バリスタ i[アイ]



■システム開発支援

(ネスレ日本様：新・宅配サービス「MACHI ECO（マチエコ）便」)

ネスレ日本株式会社様の新・宅配サービス「MACHI ECO（マチエコ）便」のシステム開発を支援しました。

アプリックスは「MACHI ECO便」において、以下のような開発支援・保守を担当しています。

■専用のWebシステム

メール送信、ネスレ公式オンラインショップとの連携、宅配管理など。

■専用の宅配ロッカーのシステム

「MACHI ECO便」システムとの連携、QRコードの読み取り、商品の入出庫管理、盗難防止など。



「MACHI ECO便」Webサイト：<https://machieco.jp/>

アプリックスでは2000年代後期より米国を始めとした海外での営業・マーケティング活動を続けており、スマホを活用した浄水器フィルター交換の仕組み（Aquasana, Inc.）、Amazon AlexaやGoogleアシスタントを使った空気清浄機（Guardian Technologies LLC）など海外のクライアントと先端的な実績があります

< IoT 搭載空気清浄機 > Aquasana, Inc.



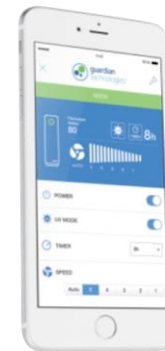
アプリックスのBluetooth Low Energyモジュールが採用された、米国大手浄水器メーカー Aquasana, Inc.の浄水システム



< IoT 搭載空気清浄機 > Guardian Technologies社

Bluetooth Low Energy /Wi-Fi両対応。
専用アプリを通じた遠隔操作やUIの改善も実現

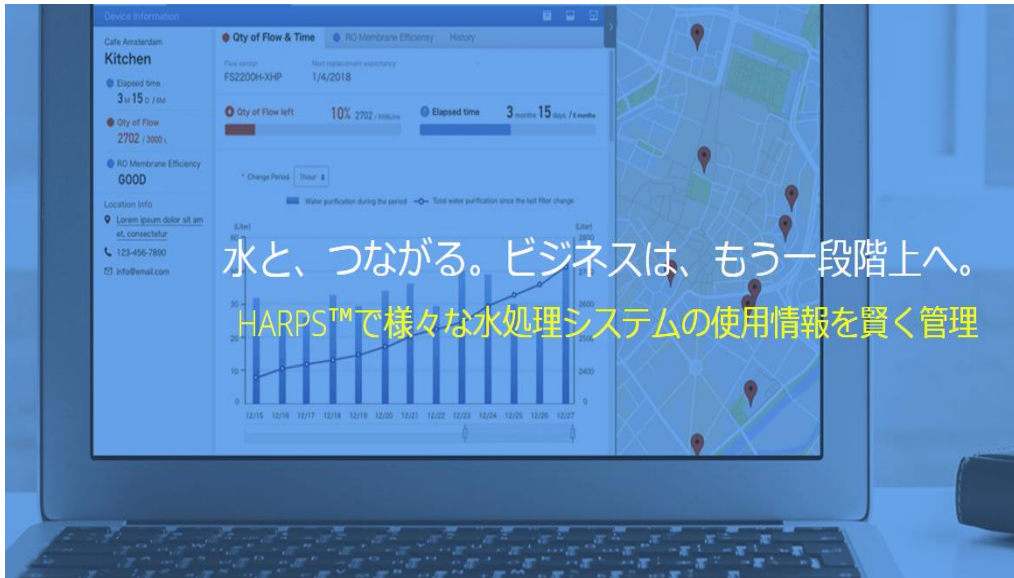
- Amazon Alexa対応
- Google Home対応



サービス : HARPS™ (ハープス)



「HARPS (ハープス) 」とは、水処理システムをIoT化するオールインワンパッケージです。流量センサーを接続して、浄水器のフィルターの使用状況や交換時期をモニタリングします。その他にも、簡易TDSセンサー（水に溶けている電解物質の除去率を測定するセンサー）など、各種センサーに対応したサービスを欧米を中心に順次展開しています



水と、つながる。ビジネスは、もう一段階上へ。
HARPS™で様々な水処理システムの使用情報を賢く管理



ハードウェア

サービス

オプション : カスタマイズ



センサーゲートウェイ
"IoTIZR™"

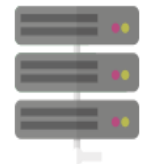


Webアプリ
モバイルアプリ

センサー追加

画面デザイン変更

接続先サーバー

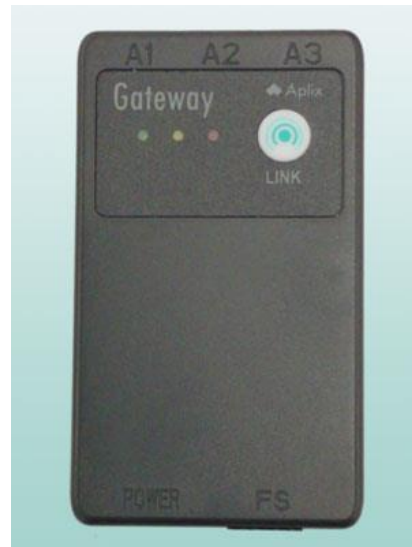


サービス : BeaBridge™ (ビーブリッジ)

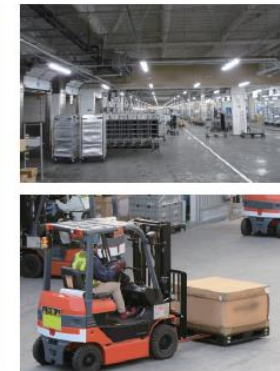
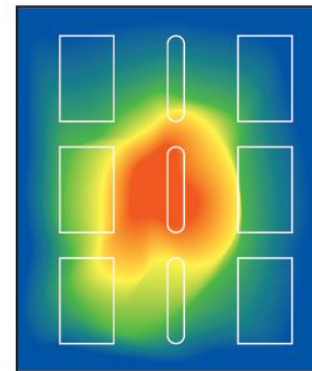


「BeaBridge (ビーブリッジ)」とは、BeaconがBluetooth Low Energy経由で発信する情報を無線LAN経由でアプリックスのクラウドにシームレスに集めるゲートウェイサービスです。ユーザーはいつでもダウンロードして活用することができます。

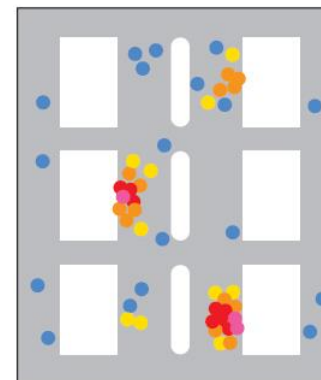
<活用例>



冷蔵倉庫の温度管理



展示場来場者の動線解析



「groma」とは、アプリックスの屋内測位／位置情報システム市場向けソリューションです。
「Quanti」は、「groma AprilTag ソリューション」の1つで、書類や在庫にiPhoneのカメラをかざすだけで、それらに貼られている複数のARマーカを同時にスキャンし、その中から見つけたものを素早く探し出すサービスです。

※「AprilTag」はAR、ロボット工学、カメラキャリブレーションなど広い用途で便利な座標基準マーカです。
「AprilTag」については、<https://april.eecs.umich.edu/software/apriltag.html> を参照。



The logo for Quanti, featuring a large blue stylized letter 'Q' above the word 'Quanti' in a blue sans-serif font, with a small 'TM' trademark symbol at the end.



■ 現状

hubea®
こそあどカメラ™

IoTIZR™
BeaBridge Gateway(ビーブリッジゲートウェイ)

MyBeacon®

IoT World Forum Reference Model

Levels

- 7 Collaboration & Processes
(Involving People & Business Processes)
- 6 Application
(Reporting, Analytics, Control)
- 5 Data Abstraction
(Aggregation & Access)
- 4 Data Accumulation
(Storage)
- 3 Edge Computing
(Data Element Analysis & Transformation)
- 2 Connectivity
(Communication & Processing Units)
- 1 Physical Devices & Controllers
(The "Things" in IoT)



■ 今後の戦略

IoT World Forum Reference Model





人工知能学会、日本ロボット学会、日本音響学会、情報処理学会・・・

CONNECTING THE UNCONNECTED



株式会社アプリックス
<https://www.aplix.co.jp/>

ご注意：本資料は、当社の事業内容等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社株式の投資勧誘を目的とするものではありません。本資料の内容には、将来の業績に関する予測等の情報を掲載することがありますが、これらの情報は、資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されております。よって、その実現を約束するものではなく、また今後予告なしに変更されることがあります。